

4年ぶり、最高の盛り上がり

昭和53年卒同期会

豪雨からひと月後の8月14日、ホテルメトロポリタン秋田にて第6回同期会を開催しました。本来は昨年開催予定でしたが、コロナ禍で延期となり今回は満を持しての開催。物故者への黙とう、亀井哲夫同期会会長挨拶、恩師で元教育長の小野寺清先生の含蓄に溢れる挨拶の後、台湾からはるばるの初参加となる渡邊丘君の乾杯で幕を開けました。

68名の参加と、前回還暦時からは減りましたが、懇談は大いに盛り上がり、司会の水澤彰人君の声が聞き取れないほどでした。川口百合子先生、柴田義弘先生からもお言葉を頂き、各クラスからの一言では盛り上がりもクライマックスに達し、恩師の前教育長米田進先生の中締めでいったん幕を閉じました。同ホテルで行われた2次会では1年生時のクラスごとの席次でさらに盛り上がり、大盛況のうちに終了となりました。

(磯崎 浩 記)



90周年時入学生の喜寿祝い

昭和41年卒同期会

10月17日に秋田キャッスルホテルで開催された昭和41年卒同期会、今回は喜寿の祝いを共に喜ぶ会となり、実参加は50人となった。母校150周年記念祝賀会にも集まる機会があったが、喜寿となれば独自の同期会も外せないよなどの開催である。お祓い、写真撮影から始まるフルコース。幹事長川村忠より150周年記念事業に向け、同期生より多額のご芳志を頂いているようだとの報告があり、共に喜寿を祝いましょうとの挨拶があった。このところ、もうただおひとかたご出席いただいている恩師三船新次先生からの、10期後輩たちに向けて激励のお話があった後、うれしい乾杯となった。乾杯の発声是最遠来、大阪よりの鈴木弘隆君。1年生の時に90周年記念行事で「汝、何のためにそこにありや」の鈴木健次郎校長の話聞いたよなから始まって、懐かしい話に盛り上がる。今回も、宴会中に集合写真に名前入れの作業を並行し、完成品をお渡しして、次回もまた絶対にと約しながら、お別れをした。

(柴田 義弘 記)



寄付最高額も笑い飛ばす

昭和43年卒同期会

「ITでポロ儲けた会社を売り払い、今は宮古島で悠々自適の日々」。創立150周年祝賀会を主催した銭谷眞美同窓会長（元文部科学事務次官）の挨拶の一節。1000万円を寄付した富樫泰章君をドギツク紹介した。男気に対して愉快に気さくに応えるのが43会の持ち味だ。記念シンポジウムでパネリストを務めた日本製鉄会長・進藤孝生君、檄を飛ばした衆議院議員・金田勝年君もメインテーブルにいた。

乾杯が終わると、時をおかず4人が昭和43年卒のテーブルに歩み寄り、改めて笑顔で乾杯した。出席者は年次別では最多、寄付額も最多。女性の出席もあって一番輝いたテーブルであった。

式典・祝賀会の前日は43会を開催。これには祝賀会の出席者を優に超える参加があり、同日開催したゴルフコンペ＝写真＝の優勝コメントもあった。「50年、100年先の秋高を見続けよう。草葉の陰からですが」（会長挨拶から）。みんながよい顔、遠くを見るまなざしで祝宴を後にした。（笹山 秀信 記）



7年ぶりの開催で笑顔、笑顔

昭和50年卒同期会

8月11日午後4時から、秋田キャッスルホテルにおいて還暦同期会以来7年ぶりとなる昭和50年卒同期会が、恩師の谷村長男先生をお迎えし、総勢73名の出席で開催されました。

集合写真の撮影後、石田達郎君の司会進行で開会し、同期の物故者に黙とうを捧げた後、幹事を代表して大淵宏見君が挨拶を行いました。

谷村先生からは、御年94歳とは思えないジョークを交えた挨拶をいただき、その後、田近吉彦君の乾杯で懇談が始まり、渡邊桃伯子さんによるAKS50のホームページのプレゼン、矢沼郷子さんからは現在の秋田高校の施設や風景などの写真紹介もあり、久しぶりの再会でクラスを超えて熱く語り合う姿がありました。

最後は須藤智明君のリードによる校歌、エール、おきまりの秋高祭（当時の）テーマソング「岬めぐり」の合唱と続き、辻良之君の中締めでお開きとなりました。（榎 昌範 記）

